

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
L204	都市と交通 I	2年	春	講義	2	古池弘隆
授業概要 ポストコロナの時代に私たちの生活は大きく変わりつつあります。新たな日常の都市生活においても衣・食・住に並んで重要なのは、円滑、安全、快適な移動を支える交通システムです。しかし近年のモータリゼーションの進展による都市の交通問題は、慢性的な交通渋滞、交通事故、地球の温暖化による異常気象など悪化の一途をたどっています。また、高齢化による交通弱者の増加も大きな問題です。公共交通の衰退や都心の空洞化も課題になっています。都市と交通 I では、まず世界と日本の交通の歴史を振り返り、現在の交通問題を詳しく調べて、それらの問題解決に向けた手法を学習します。						
到達目標(学習の成果) ・世界と日本の交通の歴史を学び、現代の都市生活における交通の現状とその課題を理解することができます。(DP3) ・交通問題の解決のためのさまざまな方法について、一般的な問題解決手法としての代替案の列举と評価の手法を身につけることができます。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	問題の発見法、いろいろな解決策とその評価方法について	事前	シラバスに目を通しておくこと			
		事後	代替案についての考え方を復習する			
2	交通の定義、交通の要素、交通の要件など	事前	交通に関することばのブレーンストーミング			
		事後	KJ法を使って交通の用語や概念を整理する			
3	古代から近世までの世界の交通の歴史	事前	配布される交通史年表を読んでおく			
		事後	授業で学んだ交通の歴史の復習を行う			
4	近代から現代までの世界の交通史、自動車の発明	事前	交通分野での産業革命について調べる			
		事後	自動車の発明の影響について考える			
5	古代から江戸時代までの日本の交通の歴史	事前	歌川広重の東海道五十三次をしらべる			
		事後	日本の交通の特異な点について復習する			
6	明治維新から現代までの日本の交通の歴史	事前	江戸時代までと明治以降の交通の違いを調べる			
		事後	交通に関して外国から受けた影響を整理する			
7	モータリゼーションがもたらした様々な交通問題とその影響	事前	身の回りの交通問題について考えてみる			
		事後	どのような交通問題があるかを復習する			
8	世界的な自動車の増加による交通渋滞の現状	事前	身の回りの交通渋滞の実態について調べる			
		事後	世界における交通渋滞の実態と原因を整理する			
9	自動車による交通事故の推移と現状、原因とその対策	事前	新聞やネットで最近の交通事故について調べる			
		事後	交通事故の歴史的な推移、原因等について考える			
10	交通公害と地球温暖化の原因	事前	温暖化の歴史について調べる			
		事後	温暖化のメカニズムと予測について復習する			
11	公共交通の衰退と交通弱者の増加	事前	公共交通にはどのようなものがあるかを調べる			
		事後	公共交通がなぜ衰退したかを考える			
12	都市のスプロール化、中心市街地の空洞化	事前	オリオン通りなど都心の商店街を歩いてみる			
		事後	都市の人口や商業施設の経年変化について復習			
13	放射・環状などの道路網、高速道路から生活道路までの道路の段階的構成	事前	道路にはどのような種類があるかを考える			
		事後	授業で学習した道路のヒエラルキーを復習する			
14	安全・円滑化のための交通信号などによる交通制御	事前	自転車や自動車が安全に走行するには？			
		事後	さまざまな交通制御の種類を振り返る			
15	自動車の社会的費用	事前	自動車を所有するのにかかる費用を考える			
		事後	社会全体で考えたときの自動車の費用を復習する			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(70%), 授業態度(30%)に基づいて評価します。

観点	S	A	B	C
都市交通の現状や課題に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市交通問題の解決策に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

教科書は使用しません。

参考書等

森田哲夫・湯沢昭 図説わかる交通計画 学芸出版社 2020年

歌川広重:東海道五十三次(<https://www.youtube.com/watch?v=Ygd4PngrLfY>)

交通史年表や交通事故統計などの資料のコピーを必要に応じて配布します。

履修上の注意・学修支援

出席状況・受講態度を重視します。出欠は毎回授業開始後30分の時点でエクセル表示により確認します。

全15回の講義の3分の2以上の出席がなければ期末試験を受験することはできません。

また、授業内容に関する質問を歓迎し、積極的に学生の意見や考え方についての発言を促します。